

日程： 8月12日～15日

場所： サンビセンテ小学校（ピニヤハン小学校）

public elementary school located at Barangay SanVicente,(Pinyahan)Quezon City, Metro Manila

参加者：加藤一夫、前澤亮子、杉山麻呂衣、亀山正道（4名）、UE 学生 28人、成田由美先生、サンデー先生

8月12日（日）お盆のため海外へ向かう旅行者で混雑するセントレアから9時30分に出発、13時10分着定刻通りの空の旅でした。到着後、顔なじみの旅行社社員が笑顔で迎えてくれました。ホテルに直行し、その後、活動のための準備品（児童用に使うチャートのコピー）、2色のガム、ペンライトなどの現地調達にショッピングモールに出かけました。夕刻には、現地の成田先生、ニール先生、サンデー先生と落合い活動の詳細を打ち合わせをしました。

8月13日（月）午前中はUE大学へ、ルシアナ歯学部長を表敬訪問。大学は、2日前まで膝まで浸かる洪水の為、休校となっていました。冠水した水が痛々しく建物の壁に泥線として水平線が残っていました。例年の無料診療は、この雨期をはずし夏休みである5月に変更してきた経緯があります。来年の1月に学部長を招待する旨を伝えてきました。その後、学部長交代の為、加藤先生が今までの7年間の活動をパワーポイントで説明をしました。例年5年生を対象に、デンタルフェスティバルというイベントで口腔衛生指導を続けています。その後、11名のUEの学生たちと、交通渋滞をすり抜け、サンビセンテ小学校に到着しました。

小学校は5年生（450人）を対象に、①お互いのむし歯の記録、歯肉炎の記録 ②口腔衛生教育 ③2色のガムを噛ませて噛み方のチェック ④生活習慣に関わる質問 ⑤ビニールバスの中の歯釣りゲーム ⑥歯ブラシ、日本製消しゴムを渡す という順に指導を進めていきました。場所は、校庭で屋根付きですから雨の心配はありません。遊び心もあってか子どもたちの関心は非常に高いものでした。UE学生たちは子どもの扱いには、大変熱心にうまく誘導、指導していました。UE主体の協力体制という本来の支援の形が出来上がりつつあります。

8月14日（火）雨、午前はサンビセンテの近郊のピニヤハン小学校へ、UE大学の学生に課外授業として活動してもらうため説明に行きました。校長不在でしたが、以前に無料診療で活動した場所でもあり、大変理解をしてくれました。サンデー先生には継続できる活動を推奨しました。午後からは、サンビセンテ小学校で残りの5年生のクラスを順次行いました。学生は17名参加、各部署で活発に楽しそうに指導を進めてくれており①から⑥を順次進めました。650を準備した消しゴムはなぜか足りなくなり、歯ブラシ2本で代用しましたが不満顔、仕方ありません。5時30分に無事5年生の全クラス（約450人）を終了。

最後の晚餐は、キーパーソンのサンデー先生と会食し、反省と小学校の課外授業の取り組み、理科のカリキュラムの中での口腔指導をお願いしました。UE学生にとっては、好評でした。

8月15日（水）強い雨が降り続いて、飛行機の出発が30分遅れると旅行社から連絡があり、時間のわからぬ出発かと危ぶまれましたが無事出発しました。帰りも大変混雑してオーバーブッキングで呼びかけるアナウンスもありました。無事、帰国。

### \*\*\*習慣の違い（チップ）\*\*\*

他国にはそれぞれの習慣があり、私たちは戸惑うことがあります。その一つに、チップを払うということ、慣れない日本人にとってはやっかいな習慣です。ホテルのベットメイキング（50～100ペソ）、荷物を運んでくれたボーイ（50ペソ）、食事をした後のチップ（サービスチャージが付いていけばいらないというが）、タクシーのチップ（釣り銭）などいくら出すのか皆目見当が付きませんが、地元の意見に従うのが良いようです。気持ちだからと言ってあまり気前よく出しても、地元の風習、相場を壊すことは良くありません。大学から小学校に向かう途中、交通渋滞の交差点で警官に呼び止められ「信号無視だ！」という警告でまくしたてられ、運転手と成田先生との密談協議の末、200ペソ（約400



円)を渡し切符を切るのを許してもらいました。後ろで1000ペソぐらいかと言うと、多すぎるというのです。味を占めて次の人にも請求するからという理由で最低で許してくれる交渉をしていたのを黙認しました。駐車場に止める時、頼んでもいないのによく私服交通巡査と称する人が誘導してくれる人が必ず出てきます。そのような人にも5~10ペソほど出しているようです。チップという習慣は、サービスに対する対価であって受ける側も当然と考えているようです。中には、田舎の方では、車道に障害物をおいて車を止め、それを取除きお金をせびるという悪質なチップ経験もありました。チップ社会の長短所を感じます。

### \*\*\*お金の確認作業(両替・買い物・飲食店)\*\*\*

両替の時には、レートをしっかり見て受け取りの時には、相手を信用しない、自分で確認することが絶対必要です。永年ガイドを行っている人でも、多い金額となると故意ではなく桁を間違えたりすることも時々あります。買い物でもカードを使っていれば料金の間違いは少ないようですが、買った品物、何を食べたか、レシートで必ずチェックする必要があるのが比国です。日本は、間違えずにお釣りを払ってくれますが、比国では計算ができないと思える人が多いようです。

### \*\*\*貧富の格差・人口比・ショッピングモール/屋台\*\*\*

富める者と貧困な者との格差が大きい国、それはフィリピンです。中流階級が占めるという日本とは一味違う雰囲気です。ケソン市は、高級住宅地が立ち並ぶ中、その隙間を埋めるようにスラム街がひしめき合い壁を隔てています。良く暴動など起きないなあと日本に住む我々が見るとつい考えてしまいます。治安には、大変、問題があります。働く場所が都会に来て稼ごうというわけですから、雇用の少ないスラムには安定な仕事は少ない様です。因みに、2008年でフィリピンの人口9千2百万人、15歳以下の人口が34.1%(日本13.7%)、65歳以上4.2%(日本21.1%)と構成が違います。若い人たちに囲まれた後、日本に帰ると、身の回りの人が明らかに高齢社会になっていることを実感します。不思議なことに浦島太郎の雰囲気を感じます。

近年、成長過程にあるフィリピンは、高度成長にありショッピングモールの造成があちこちで進んでいます。ランドマーク・ロビンソン・トライノーマ・シューマート等日本とは桁違いの商店数、大きさです。中には遊技場、スケート場もありここはどこ?と思われま。生活用品はまだ安いというものの結構高い値札がついています。多くの店内は広く似たような構造になっていますので迷子にならない方がおかしいほどです。子どもずれの家族や友人など大変な混みようで賑わっているのもフィリピンの一面かと思えます。それに対して、スラムでは、何でも屋的な屋台の店が、所狭しに店を連れ、小銭で買えるものがぶら下がっています。

### \*\*\*総括\*\*\*

7年間継続している小学校での啓発活動は、ゆっくりですが着実に浸透してきています。しかしながら、開発途上国・貧困地域という土壌で問題意識を高めることには、根強い継続的な指導、支援が必須です。日本からは、一時的な関わりであり、実働部隊は地元の歯科医師、大学関係の公衆衛生的な持続的活動が必要です。少しずつではありますが、相手側の小学校も前向きな構えで歩を進めて貰っているように思います。実施方法や効果的な教育指導方法の実践を、UE大学に続けてもらえるようフォローできれば一つの目的は達成されたのではないかと思います。

今後も、色々な知恵を出し合って少しでもフィリピンの子供達達の健康な口、体を改善できればと願っています。貧困・社会構造は1.2年では変わりませんが、意気込みや夢は、いつか実現できます。皆さんの更なる暖かい声援、支援をお願いしたいと思



ます。